

神奈川歯科大学同窓会学術講演会 新たな分野“歯科医のための心身医学・精神医学”を開催して

平成15年4月20日（日）、横浜市中区、神奈川県歯科医師会館を使用し、“歯科医のための心身医学・精神医学” というテーマで本年度第1回目の学術講演会が開催された。神奈川歯科大学同窓会会員はもちろん、他大学からも多数参加され100名にも及ぶ多くの受講者の先生方にお集まりいただき講演会は予想以上に（？）盛況であった。

歯科の日常臨床において患者の訴える症状も多彩になり、歯科だけの問題では当然解決できないような、口腔領域の病態を主訴に来院される患者が増加していると感じる。そこで、神奈川歯科大学附属病院かみ合わせ外来（玉置）で遭遇した心身医学・精神医学的アプローチが必要になった患者の経験が口火になり、第一講師として、神奈川歯科大学非常勤講師（現在、神奈川歯科大学非常勤臨床教授）の和気裕之先生により、心身医学・精神医学の基本的知識、実際の患者の医学面接の結果、どのように診断し、どのような対応をとるべきかについてわかりやすく説明が行われた。第二講師の宮岡等先生は、和気先生と同様、現在神奈川歯科大学非常勤講師として神奈川歯科大学6年生の隣接医学の講義を担当している精神科医の先生である。宮岡先生と和気先生は約10年間にわたり、東京医科歯科大学口腔外科外来でこのような患者に対するリエゾン（連携）療法を実際に続けてこれら



懇親会にて、右より宮岡等先生、藤田晃同窓会長、和気裕之先生、川瀬俊夫副学長、玉置

た経験豊富な先生方である。宮岡先生からは、患者は明らかな身体病変がなくても、自覚症状がでることもある。安易な診断的治療をしない。何らかの処置をするときとしないときの、それぞれのプラス面とマイナス面を患者に説明し、同意を得た上での治療が大切。急がないで待つこと。など医療に携わるものとして非常に感銘を受ける講義内容であった。

結論として、現在の歯科教育では心身医学や精神医学の知識は乏しく、今後の歯科大学における教育の必要性、そしてこれからの歯科医は患者を心身両面から評価して診療することが求められることになるであろう。最後に、この講演会に出席された川瀬俊夫副学長はこの講演内容は医局員教育としても重要であると考えられ、6月25日、6年生への講義に引き続き、宮岡等先生による大学教員に対する講演会が企画されたのは記憶に新しい。 （玉置勝司）